

総 合 セ ッ シ ョ ン

中国をめぐる開発と和諧社会 －和諧は可能か－



パネルディスカッション



2008年12月5日（金）

○司会 それでは時間になりましたので、これから総合セッションに移らせていただきます。総合セッションのテーマは、「中国をめぐる開発と和諧社会—和諧は可能か—」です。総合セッションでは、政治、経済、環境、文化の各セッションから、お二人ずつパネリストとしてご登壇いただいております。

ここで、座長の高橋五郎先生に司会をバトンタッチいたします。

○座長（高橋） では、ただいまから総合セッションを始めます。私は進行役を務めます高橋です。演壇にいらっしゃる方々のご紹介を簡単にいたします。私から順次、所属のセッションとお名前、そして所属機関を申し上げます。

まず私のすぐ隣です。経済セッションの代表として、川井伸一先生です。愛知大学経営学部教授、ならびに国際中国学研究センターの運営委員であります。続きまして、同じく経済セッション代表のルー・ディン（Lu Ding）先生です。現在は、カナダのフレイザーバレーという有名な大学におられます。

続きまして、3人目です。環境セッション代表の藤田佳久（よしひさ）先生です。愛知大学文学部の教授で、同じくICCSの運営委員です。同じく環境セッション代表の宋献方（SONG Xianfang）先生、中国科学院の地理学・資源研究所の教授です。

次に、政治セッション代表の加々美光行（かがみ・みつゆき）先生、愛知大学の現代中国学部教授で、同じくICCSの運営委員です。前所長でもあります。同じく政治セッション代表の許紀霖（XU Jilin）先生です。華東師範大学の教授です。

続きまして文化セッション代表の周星（ZHOU Xing）先生です。愛知大学国際コミュニケーション学部教授、同じくICCSの運営委員です。最後になりますが、文化セッション代表の張海洋（ZHANG Haiyang）先生、中央民族大学中国少数民族研究センター主任、民族学社会学学院教授です。

以上の8名により総合セッションを進めます。総合セッションの内容については、ただいまジャック・ホウ先生の大変素晴らしいご講演がありました。本来、1時間で十分であると、ご本人がお

っしゃっていたのですが、2時間まで延ばして、あらゆるところへアドリブで演出していただいて、大変素晴らしい内容でした。私自身も質問したかったのですが、時間の都合でできませんでした。また機会がありましたら質問をしたいと思っております。

ジャック・ホウ先生のお話も含めまして、今回のシンポジウムの大きなテーマであります「和諧」と「開発」に関しての総合的なディスカッションになるわけですが、概ね進め方としましては、まずパネリストの先生方に、お一人8分程度で、それぞれの専門分野から見た現在の中国における和諧の現状評価、ご自身のお考えになる「和諧」の意味も含めて、どのようにそれを受け止めていらっしゃるのか。また、現段階における和諧の到達が、どの程度まで進んでいるのか、あるいはどうなのかということを中心とした現状評価を伺います。これが1点目の発言の内容です。

2点目は、3日間のシンポジウムを通して、私たちがディスカッションをしようとしているテーマに関して、どのような目標を持つべきであるかということを含めてお話いただければ、大変ありがたいと思っております。

時間の都合もありますので、では早速始めたいと思います。そしてその後、皆さま方も含めて、会場と一体となった討論をしてみたいと思います。

私たちは、たまたまここに座っておりますが、できれば一緒にいろいろなことを議論して、そして会場のなかから1つの議論の場を設けていきたいと思っておりますので、ぜひ活発なご質問、ないしはご意見をお願いしたいと存じます。

それでは最初に川井先生、お願いいたします。
○川井 愛知大学の川井でございます。私からは主に評価にかかわるというよりも、この和諧社会というテーマに対して、どのような視点、アプローチが考えられるのか、経済を中心に示してみたいと思います。

最初のこの中国共産党中央委員会の決定については、皆様は既にご存じでしょうから、確認するだけに留めます。現状評価については、このようにまとめることができると思います。すなわち、全体的には調和しているが、調和に影響を及ぼす

ような矛盾と問題も少なからず存在しているということです。

この場合、調和か、そうでないかという問題は、大変複雑な問題ですが、要するに何を基準に設定するのか。そして、それぞれの基準から実際のレベルをどのように評価するのかという問題だろうと思います。これについては、まだ私自身の考えは十分なものではありません。これから勉強したいと思います。

目標については、2020年までに高い水準の小康社会の全面的な建設という場合、やはりこのへのポイントは果たして実行できるかどうか、目標は達成できるかどうかという問題、これもこれからの議論の1つのテーマであろうと思います。

決定のなかに示されている問題点、矛盾点を列記すると、このような論点が明記されています。これは先ほど高橋所長が紹介したのもでもあります。1番から6番、どれを見ても、やはり、経済問題にいずれも直接・間接に関連している問題です。それが第1点。

1-2 主要な問題点

- 1 都市・農村、地域、経済社会の発展不均衡、人口・資源・環境の圧力増大
- 2 民衆の切実な利益の問題(就業、賃金、社会保障、教育、医療、住宅、安全生産、社会治安など)
- 3 体制メカニズムの未整備、法制度の不健全
- 4 社会における信頼・モラルの欠如、指導幹部の素質、能力の不適合
- 5 腐敗
- 6 敵対勢力の浸透・破壊活動による国家安全と社会安定に対する危害

いずれも経済問題に関連する

第2点は、これらのような問題点の相互関係です。もしくは相互の依存関係。これをどのように見るといえるかということは、やはり1つの検討すべき課題であろうと思います。この問題点が、中国社会全体でどのようなウエイトを占めるのかという問題です。これも大変重要な問題であろうと思います。これもこれから検討していければと期待しております。

そのような現状の論点を踏まえて、この間の中国において、いわば市場経済システムという観点からいろいろな論点が既にさまざまな人から提起されています。そのような経済システムの論点

から和谐社会をとらえた場合に、どのような論点があり得るのでしょうか。また、どのように見ることができのでしょうか。

ここでの主要な論点は、明日の経済セッション以降の各セッションで必ず出される論点だと思います。1つの論点は、効率と公平の関連、バランスをどのように取るかということです。これに関して、中国においては、いろいろな内部の論争、議論がパネルにお示しのようにあるわけです。一方は効率を重視する意見があり、他方では公平をより重視すべきであるとの意見がある。この効率と公平という論点は決して二者対立の関係ではなくて、実際に両方必要であろうと思いますが、その場合に、どのような位置付け、ないしは優先順位をとるかということは、重要な問題だろうと思います。

第2の論点は、市場経済に対して、政府はいかにかわるべきか、という問題についてですが、中国ではいろいろな大論争があります。したがって、「調和社会」「和谐社会」について、この観点からどのように考えられるのでしょうか。

2 中国市場経済システムの論点

論点	「新自由主義者」	「新左派」	「和谐社会」論
効率 vs. 公平	効率性を重視 機会の平等	公平・平等を重視、結果平等も配慮	効率+公平 成長+分配
市場 vs. 政府	市場信頼 小政府 政府の失敗	市場不信 大政府 市場の失敗	市場+政府 マクロコントロール
民主化	民主化積極的 利害関係者の参加	民主化の制限、 政府の調整	党指導の下での 民主化
グローバル化・ 外資導入 不公平の原因 と処方箋	賛成・メリット 旧体制・政府介入 の弊害 市場化・自由化	制限・デメリット 市場化自体に問題 政府機能強化	外資との協調・ 利用 総合的対策

民主化、グローバル化、ないしは外資の導入についても同様です。不公平の原因やその処方箋についても、ここに示したような論争があります。かなり単純化した図表ですが、単純化ゆえに論点が明確に出るといえることです。要するに、どちらか一方だけを追求すればいいというわけではなく、両方の視点が必要だろうと思います。

最後になりますが、これからの考慮すべき点として、経済セッションとしては、この第1点である中国経済の格差、矛盾の要因およびメカニズム、その矛盾を解決する処方箋としてはどのようなものがあるのかという点です。国内版F T A (自

由貿易協定)とか、雁行型形態、ODA(政府開発援助)などの論点は、ある私の知り合いが言っている興味深い議論なのです。

3 考慮すべき視点 シンポの検討課題

- 1 中国経済の格差矛盾の要因・メカニズム
処方箋 国内版(FTA、雁行形態、ODA)
- 2 他国の開発経験からみた比較視点
アジアの経験(権威主義開発体制)
- 3 経済と環境の共生
CO₂削減、水、リサイクル
- 4 利害関係の調整システム
一党支配のもとでの利益主体間の調整
- 5 経済とモラル コンプライアンス、社会的責任

FTAとは、要するに国内のバリアーを自由化することで、財の移動を自由化することです。雁行型形態とは、沿海地域から内陸地のほうへ直接投資、企業を誘致しましょうということです。ODAは、財政の再配分です。

これはもともと国際間で用いられる用語ですが、中国国内は広いですから、これに適応しようということです。おそらく、このようなところも重要な問題だと思います。

第2は、他のアジア諸国の開発経験から見た比較という視点は、やはり今回のシンポジウムでも重要な論点の1つです。アジアの経験、いわゆる権威主義的な開発体制は、中国との比較ではどのように位置付けられるのでしょうか。このようなことが、やはり経済面からでも重要であると思います。

それから3番目、これは経済システムと外部環境、経済と社会環境との共生という新しい視点について、中国はどのように取り組んでいくのかということです。CO₂削減、水、さらにはリサイクルの在り方等々、これは環境セッションの主要な論点でもあるかと思いますが、同時に経済の問題でもあります。

4番目は利害関係の調整システムについて。これは大変重要な問題だと思っております。要するに、現状を踏まえていけば、一党支配のもとでいろいろな利益主体、ステークホルダー(Stakeholders)がいろいろ自己主張を始めています。そのなかで、それをいかに調整していくのかという問題です。

それから5番目には、やはり経済の問題ではなく、先ほどジャック・ホウ先生のお話にもありましたように、モラル、精神という問題は、やはり重要な問題ではないかと思います。特に経済面では、企業のコンプライアンス(Compliance)の問題や社会的責任の在り方をいかに進めるかということです。以上、少し論点の視点、もしくは論点の提起に留めたいと思います。

○座長 ありがとうございます。それでは逐次解説はいたしませんので、取りあえず、皆さんのご意見を続けて聞いてまいりたいと思います。次は、ルー・ディン先生、お願いします。

○ルー・ディン 谢谢。其实刚才川井先生讲的几点意见都非常重要，已经涉及到中国当前社会、经济、政治几方面最重要的一些课题，许多话也是我本来想要讲的。我觉得今天听侯教授讲演，有一点他讲的非常精彩就是中国在邓小平时代就强调“发展是硬道理，让一部分人先富起来”。所以中国在80年代一直到90年代，主要的课题就是怎么增长，怎么把经济推入起飞的轨道。当经济起飞以后，到了90年代中期以后，逐渐就出现很多社会问题。当一部分人先富起来，经济已经起飞了，首先出现的就是增长和公平的问题。我们知道中国个人收入不平等的指标(基尼指数)一直在增长。现在中国其实已经到达了南美的水平，所以这么高的一个基尼指数其实是处在一个社会动荡不稳定的边缘。我们也看到媒体报道，中国发生了越来越多的地方骚乱和群众的请愿活动。另外一个不公平的表现就是城乡的不公平。城乡的不公平是由于体制上对农村居民进城的限制，所以造成农民工跟城市居民落差的扩大。另外还有一个现象就是地区之间差距的扩大。如果光是有不平均的发展，但是这个机会是均等的那么还可以，人民社会还能够接受，问题是机会不均等。最近中国社科院的一个调查也表明，大部分的群众都认为，中国的官员很多人致富都是利用不公平的手段。第二个大的课题就是增长和效率的问题。所谓的增长和效率，其实就是中国的增长模式长期以来虽然非常成功使经济起飞了，但是其实是一个存在很多效率问题的一个模式。首先它是一个高投入的模式，中国的投资率、储蓄率都是世界上最高的，靠大量的投入。这个资本产出率跟韩国、日本经济起飞阶段比起来也是相当高的。用比较高的投入才达到这样的增长率，这个增长又是建

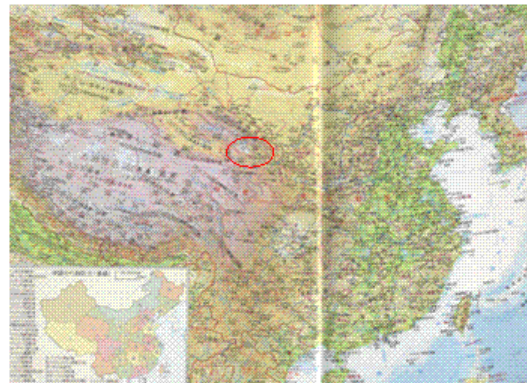
立在廉价劳动力(劳动力价格非常低)、低汇价(人民币汇价长期以来压低的)的基础上的。然后国内的能源供应又是低于国际价格的价格,国家控制了能源的价格,这样等于是一个出卖低廉的劳动力,压低自己的成本来供应世界的市场。更严重的是还在牺牲中国的环境资源。这样的一个增长模式其实本来是一个外向主导型的模式,外向主导型的模型在日本和东亚国家雁行理论里面都是成功的先例。中国也成功的跟走了这条路使得经济起飞了。但是发展到现在就面临着一个转型,需要转到以内需为主的一个增长模式。而且中国国家这么大,不可能持续走这条路下去。现在整个世界经济的不平衡,整个国际经济的不平衡,美国的大量赤字,中国大量的盈余、外汇储备的超高,这个都是造成全球经济不平衡的一个原因。中国这么大,外向型为主导的路不可能再走下去,已经走到顶了。所以在这个环境承载力,国内的劳动力成本的压低,这个不光是造成中国本身的分配不平均,也是全球分配的不平衡。中国现在面临增长和公平,增长和效率这两个大问题,可以说是我们这次讨论会应该重视的,也应该集中讨论的。最后三分钟讲一下长期的课题,我想这个长期的课题一个是政治民主的问题,也是刚才川井教授讲到的。“和谐”,其实这两个字拆开来看的话,“和”其实一个“禾”就是“稻禾”、一个“口”也就是说要解决吃饭问题,是经济发展问题。“谐”,一个是“言”,一个是“皆”,就是让大家都有机会说话。一个要让大家有机会说话,一个让大家吃饱,这才会有和谐。但是中国现在其实是一部分人很饱,但是大部分人是没办法说话的。从长期来讲,也是刚才提问的一位先生和川井教授都提到了,就是道德问题、中国的文化建设问题。中国的文化建设、道德建设这个问题非常严重,侯教授讲到中国的儒家文明的重要性,对中国经济繁荣的重要,但是很可惜中国的儒家文明在近现代受到一次一次革命的冲击,到了中国文革都已经荡然无存了。所以中国很多社会问题都是一个道德问题,而亚当·斯密的另一部著作就是《道德情操论》,他自以为这个著作比《国富论》更重要,所以我们想中国今后可能需要更重视道德情操的建设。谢谢!

○座長 はい、どうもありがとうございました。それでは続きまして藤田先生、お願いします。

○藤田 環境セッションの藤田と申します。隣の

宋先生とお話ししましたが、これまでの環境班はいつも隅のほうでしたが、今回は真ん中にあるので驚きました。環境も出世したかもしれないということでしょうか。

環境セッションでは、「開発に伴う環境変化と和諧社会」が大きなテーマです。せっかくですから、今日ご出席いただいている、青海省から来られた宋先生のお世話で、この夏



に青海省をめぐるしたので、少しそのへんのお話を入り口にさせていただきたいと思います。

なお、明日、宋先生の発表がしっかりございますので、興味のある方は、ぜひそちらにご出席いただいて、聞いていただければ大変ありがたいと思っております。

青海省は、行かれた方も、行かれていない方もおられると思いますが、丸印よりはもう少し広いのですが、だいたいあの辺りで、中国で最大の青海湖、青いきれいな湖があります。色からもわかりますように、チベット高原の一部です。だいたい2,500メートル以上の空間です。



飛行機から見ますと、本当にはげ山が多く、降水量も、場所によりますが、250ミリとか300ミリ以下です。そうしますと、このように、ときに

雨が降りますと浸食が進んでいきます。この土砂が下流のほうへ流れ込んでいくという場所です。



西部開発が非常に進行していき、実は中国のなかでも青海省が一番の奥地の部分です。その点で言いますと、一番環境条件は貧弱な部分です。これは省都である西寧市の写真です。西部開発によって高層ビルが次々と建ち、ここへ行くにも高速道路ができていました。省のなかでも、道路整備が進んでいました。おそらく、今後の観光開発が意識されているのではないかと思います。

この写真でおわかりになるかもしれませんが、やはり、空気、視界はそういいものではありません。日にちによって違いますが、概して言いますと、やはり埃（ほこり）が多い街です。一緒に行った水質を測る先生も、ここに流れている川を測定しましたが、伝導度（値が高いほど、水中のさまざまな物質の量が多い）が高く出ています。

そのような状況で、西寧市のもともと多くない人口の中のかなりの人たちが、ここに集積をしています。これは谷にありますので、この谷が開発のシンボルになっています。



これは黄河や長江の源流地帯です。これは黄河の流域の農家を訪問したときの写真です。このよ

うにガラス温室で、この農家は年収2万元とおっしゃっていました。このような奥地のほうも、場所によっては、今の商品経済の波をうまく利用して高い収入をあげています。家の中には、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、それからトラクターまで揃っていました。この村に関して言いますと、7割ぐらいが、この家のようなレベルにあるという話でした。

急速に農村も変わっていると言えると思います。商品作物をつくっています。商品経済が、非常に奥地のほうまで入り込んできているということです。



これは、退耕還林（たいこうかんりん）の事例です。タール寺という密教系の有名なお寺ですが、その町の周辺を撮った写真です。このようなかたちで、かつて街を包んでいた階段耕作の部分に、このような木が植えられ、周辺がモデル地区になっています。あちらこちらで退耕還林の成果が、かなり進んでいるということを見せていただきました。そのような点で、スローガンだけではなく、青海省の場合はかなり実現しているという状況にありました。ただ、中国政府は、退耕還林政策については、今まで出している資金は出すけれども、新しい新規の退耕還林面積はやらないということのようです。

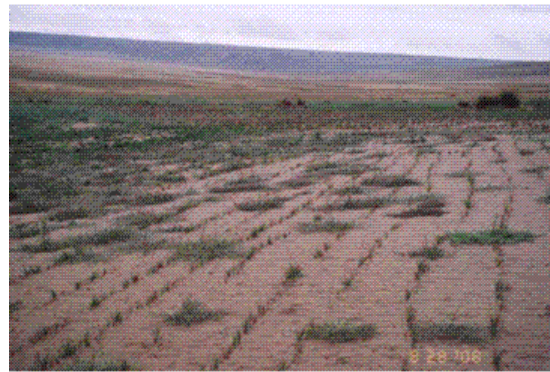


このように南にはげ山地帯があります。このはげ山地帯には、大きな谷、ガリー (gully) が発達しています。ここに階段耕作的な段をつくって草を植えて、はげ山を改善しようとしています。

一方では、国有林管理がかなり進行しています。このように山間地域ですと、全体としては、はげ山が多いですが、部分的に、このような見事な植林も進んでいます。



一方、高原の上に行きますと、乾燥地帯ですから砂漠があります。この地域は、もともとは草原でしたが、そこに入植者が入って砂漠化してしまいました。そのあと、またこのようなかたちで苦勞して復元している様子です。



そして、より 3,000 メートル近いところの草原地帯では、このようなかたちで草を植えて工夫しています。これも微妙な地形、あるいは土条件でうまくいったり、いかなかったりということがあられるようです。

そして、低所得地帯のなかで、多くの人たちを、そのような地域から 1 カ所にもって来るということで、いわゆる生態移民の場所です。このようなものもつくられています。



しかし、一番上流のほうへ行きますと、このように自然の侵食が進行しています。



そして、青海湖です。一番きれいで大きな湖がこれです。鳥の島 (Bird Island) へ行ったときの看板の写真です。なぜ看板の写真を撮ったのかと言いますと、われわれが行ったときには、これしかありませんでした。これは季節によります。残念ですが、これしか見ることができませんでした。



ここには湟魚 (こうぎょ) という、非常に成長の遅い魚がいます。しかし、これも乱獲で非常に数が減ってしまい、今、保護政策が実施されています。もともとチベット族の聖地でもあったわけです。そこで今、徹底的な管理がおこなわれています。



そして黄河です。「黄河」と言いますが、青海省では、「黄河」ではなくて「白河」です。白色です。したがって、これも環境条件により色が違って来るわけです。上流のほうは黄色くなっていません。

そして、自然の農村をうまく生かしたようなレストラン等が、あちらこちらにできつつあるということです。

簡単ですが、以上です。奥地の生態系が一番弱いところから中国を見た場合にどうなるのかということです。非常に環境が弱いですから、そこに少し手を入れることによって、それが地域にどのような影響を与えるのかという点が今後の問題です。



ようやく、今、ここまで開発行為が及んでくるようになったわけです。その点では、それをどのような基準で見えていくのか、環境の活路をどこに見出していくのでしょうか。人間の生産活動と、どこで調整し合わせていくのかということです。

それと同時に、生態的な単位、地域単位というもの、どのような設定をすることによって、きちんとそれが認識できるのか、その範囲の大きさ、広がり、そのようなことも非常に重要な問題とし

て今後出てくると思います。

それともう1つ、パブリックな空間をなかなか確保することがうまくできません。上からでないといけないところを、このような形で地域の人たちのなかから、上へあげていくことが、非常に大きな問題が多々あるという感じがいたします。

少し長くなりまして申し訳ありませんでした。以上です。

○座長 どうもありがとうございました。それでは引き続き、宋先生、お願いします。

○宋献方 我是中国科学院地理科学与资源研究所的宋献方。我是做水研究的。我实际上从2004年起每一次都参加爱知大学的学术研讨会，包括参加了第一届COE环境组连续几年的活动。正像刚才藤田先生说的，这次会议的顺序好像发生了很大的变化。我想这种变化和这次会议的主题有非常密切的关系，我看了一下会议的主题，实际上与以前会议主题的名字有很大的变化，以前都是在讲巨变的中国发生了什么变化，这次主题是开发和和谐社会。实际上刚才前面经济组的川井先生讲的这些问题，我想我们都很清楚，那么回过头来讲，我谈一些感想，给一些建议。实际上也像刚才我们今天的这个主题报告候先生讲的，从中国五千年历史来讲，东方思想在经济发展中的作用当然有很多不同的意见。那么我想在这里边，刚才在会场一位日本朋友提出中国有没有宗教的问题，我想在这讲这个问题也好。也就是说我以前讲过中国这个社会有五千年的历史，又经过了共产党建立政权以后实行了一系列的政治运动。我在讲政治是好事也是坏事。同样文化大革命也是两个方面的作用。那么实际上经过文化大革命以后，中国现代的社会，我以前也讲过，应该是最开放的一个社会，没有任何的宗教束缚。以前的儒家思想经过文化大革命以后确实是变化了很多，西方的一些宗教思想也进入了中国。但是应该说现在中国国内没有一个统一的宗教可以约束13亿中国人民，也就是说现在13亿中国人想什么都可以、讲什么都可以、干什么都可以，现在是非常开放的一个国家、民族。因为本来中国就是一个多民族的国家。实际上讲汉族就是一个多民族混合的一个民族。刚才候先生讲他长在台湾，实际上他也讲出身是大陆。我们当时批以前台湾的总统李登辉讲汉族是什么玩意不知道，我自己也是汉

族，实际上严格的说汉族是什么民族不是太清楚。刚才候先生讲唐朝的时代，实际上唐朝我们国家的文化就是多元文化，应该说是是一个非常混合的民族。那么大家看看中国历史上几个这样大的王朝，唐、宋、明、元、清，实际上汉族建立的王朝严格的说来只有宋朝和明朝，但是在那个时代也不是特别的强盛。当然清朝开始的时候也是非常强盛的，但是后来出了一些问题，正好候先生讲的这些问题。我想说爱知大学作为中国以外的研究中国问题的一个学术机构，究竟定位在什么地方？所以我想应该下一步在争取战略方向上，我们要明确。如果仅仅是每年开一次会，实际上和我们的定位可能，我想应该不止定这么低。我觉得以前就在我旁边的加加美先生他提出这个方法论，那么我建议会议的主题，应该每一次针对一个实际问题，正想刚才藤田先生讲的青海的问题。实际上我们COE经过第一期五年以后，已经对中国这个情况，应该说比较了解，当然完全了解还不可能。那么应该选那么一个主题真正实际去做一些调查，我刚刚佩服候先生讲的，他已经是这么大学问家，还只是讲他是对中国问题感兴趣的一个小学生，他说因为他没有在中国待很长时间。那么我听到候先生讲这个话实际上我有非常大的一个感想就是，做中国研究一定要针对中国的问题到现场去看一看，当然我们读以前的书、读以前的资料也是非常重要的一个方面，但是更多的要到目前现实的中国社会去看一看，到底现在发生了什么。如果我们不看，只是凭一些资料或者只是想象我们传统的一些认识，实际上中国发生了非常大的变化。正像我们第一期COE讲的，“巨变的中国”，中国确实是巨变。那么我在讲我本人，我们在讲中国社会，无论是官僚阶层还是研究阶层，基本上中国是四十岁到五十岁之间的人在当家。五十岁以上的人很少，因为我们有文化大革命，那时候没有大学生。也就是说这一代人既是文革的受害者，也是文革的受益者，也是非常辛苦的一代。我为什么这么讲，因为我们在读书的时候，实际上不是特别辛苦。因为那个时候提倡毛主席教导我们要德智体全面发展，实际上做起来，中国做事上有政策，下有对策，往往会发生偏差。这样也就造成了我们从上小学、初中、大学基本上是国家来管，那么我们分配工作也是国家来管，那么到现在我们得到的位置，因为我们五十岁以上到六十岁以上的没有，所以我们这一代人什么机会都占住了，但是

实际上も有很大的波动。因为时间的限制，所以我这个说话主题可能和和谐社会不是太合拍，我就建议我们COE以后，应该选择一个主题来共同来做一件事，而不要分开政治也好、经济也好、文化也好来单独操作，这样的话可能不利于爱知大学将来的长期战略。谢谢！

○座長 はい、どうもありがとうございました。それでは続きまして、加々美先生、お願いします。

○加々美 政治セッションのテーマは、「和谐社会と開発政治」となっています。ここで使われている「開発政治」は、聞き慣れない言葉だと思います。最初に、そのテーマについての基本的な考え方を、皆さんにご紹介したいと思います。

「改革开放」という言葉は、この約29年ずっと使われてきました。いわば、ほとんど皆さんが、十分に改革开放の中身について実践を通じて理解できているということがあります。

しかし、「開発」という言葉は、初めから使われていた言葉ではないのです。実際には、1990年代に海南島の開発などがおこなわれた際に、一般に「開発」という言葉が使われました。しかしながら、学術会、あるいは政策的な部分において、「開発」という言葉は極めて使われることが少なかったのです。「開発」という言葉が、正式に使われたのは、1990年に国务院が発表しました「西部大開発」の大綱といわれるものです。これが2000年から本格化したと思います。上に「大」がついて、「大開発」という単語が使われるわけです。

私はこの報告のなかで、皆さんに、ジャック・ハウ先生も含めて論争を仕掛けたいと思います。私は、ジャック・ハウ先生のご報告の初めの部分聞き漏らしておりますので、正確にジャック・ハウ先生の観点をすべて理解しているかどうか、少し私自身にも問題があります。しかし、「開発」という概念に、重大な問題が潜んでいると思います。この全体のシンポジウムを、「開発と和谐社会」といたしましたのも、実は開発と和諧には、相互に対立・矛盾する内容が含まれてくるということです。開発と和諧が矛盾・対立を来している、この現実に対して、政治的にどのように解決することができるのかという問題が、「開発政治」という言葉の概念です。

開発の概念の一番の問題は、ジャック・ハウ先

生のご報告もそうでしたし、いろいろな方のご報告もそうですが、経済成長第一主義、経済成長を第一に考えることと、もう1つは、ビッグ・プロジェクト主義、つまり規模の大きな建設プロジェクト、そのようなものを推進するという内容を含んでいることに開発の根本的な問題があるわけです。この経済成長第一主義とビッグ・プロジェクト主義を、私は「開発主義」という言葉で概括したいと思っています。

実は、経済成長そのものが天井にぶつかるといふか、隘路にぶつかっているのは、この開発の持つ負の部分をもたらしている社会的現実によるわけです。貧富の格差はむろんです。それから地域間格差、産業間格差、もちろん農工商格差も含まれます。それだけではなく、環境破壊、環境汚染という問題、あるいは資源の枯渇、特に熱エネルギー資源、水資源の枯渇といったことが、極めて深刻に発生しています。それが経済成長そのものを、普通は外部経済的要素とくくられていますが、実は経済成長の持続的成長を妨げる重大な要因になっているということです。

1984年に、東京大学の経済学部の宇沢弘文という教授が、『現代日本経済批判』という本を岩波書店から出しました。1980年代、既にサッチャリズムなどが起きていました。先ほど話に出ました全面自由市場主義、アダム・スミスの議論、そのようなものの前提として、クオリティ・オブ・ライフ（quality of life：生活の質）ということ、日本はあまりにも無視し、成長一辺倒で来ました。そこに一番大きな問題があったと宇沢弘文は指摘したわけです。日本がきた道を、中国は今ひた走っていると私は考えます。

今ここで、成長に天井がくる前に開発政治を考え、しかもそれを政治は具体的な現実を踏まえなければいけませんから、先ほど宋先生が言われたように、ICCSの研究は、抽象的開発政治を論じるのではなく、社会紛争を起こしているような個別的事例のなかに立ち入って、どのような開発と開発の矛盾を克服する道が見出せるかというものを考えるということ、これがここで使っている「開発政治」という言葉です。

まだ依然として、ここで私が申し上げているのは、基本的に言えば、考え方のみを皆さんにお伝

えしていますが、今後の ICCS の研究事業展開のなかで、その具体的な姿を一つひとつ提起していきたいと思います。これには、むしろ少数民族の問題も含まれます。

○座長 はい、それでは続きまして、許紀霖先生、お願いします。

○許紀霖 感谢 ICCS 和加加美光行教授的邀请，我是第一次到名古屋来。我知道爱知大学的前身东亚同文书院诞生在上海，我来自上海，所以感觉到这里来倍感亲切。我觉得这次会议的主题非常好，关于中国的发展与和谐社会。我们都知道，实际上从江泽民、朱镕基时代到胡锦涛、温家宝时代有一个很大的发展变化，国家政策的变化。这个变化就是江泽民、朱镕基时代秉承了邓小平的“发展是硬道理”、“让一部分人先富起来”，他们抓的主要是发展，这个发展重点是在于沿海地区的发展。先是广东，然后是上海为龙头的长三角，主要是发展。经过差不多二十多年的发展，中国经济崛起了，但是也出现了非常严重的内部社会问题，这些社会问题主要就体现在中国内部社会的各种各样的断裂。这个断裂是多方面的。一个是各个不同地区的断裂，沿海与内地、城市与农村。也有阶层的断裂，就是社会的各种不同阶层的收入、社会地位悬殊的差异，这方面已经到了非常触目惊心的地步。且不说像发达地方、地区，比如说我所在的上海，这个城市内部上下的阶层的差异很大。前不久我去山西，山西过去是个穷地方，现在因为他产煤，是一个能源大省。后来我发现在山西的社会阶层的差异甚至要远远超过上海。山西的很多人包括城市的平民和一般的农民依然很穷，但是山西有很多煤矿主，现在山西出煤矿主，其富裕到了难以想象的地步。我发现每个周末从太原飞往上海、广州、北京的班机都是满满的，因为这些人要到这些地方去度周末。所以这样一些严重的断裂就产生了很多的社会问题，进而引起很多的群体事件乃至一些政治的问题。因此到了胡温时代，他们除了重视发展以外，还开始提出和谐社会。当然和谐社会这样一个理念，主要在于要协调不同的社会利益、社会的群体。在发展的前提下，向那些内地、农村和弱势群体有所倾斜。这点是和江朱时代的一个比较大的变化。但是我们要注意到，即使是这样，和谐社会还是有一个前提，这个前提就是经济发展。经济发展在今天依然是硬道理，甚至比和谐社会在某种意义

上还更重要。这个更重要就是说，我们要看到中国这样之所以社会出现了断裂，但是还没有引起全局性的社会动荡和政治危机(只是一些局部性的群体事件)，乃是因为很多矛盾被掩盖了，之所以被掩盖是因为经济还在高速增长。因为经济在高速增长，这个蛋糕还在扩大，所以即使分得少一些，生活质量比较过去还是有所改善。所以发展依然是中国今天的一个硬道理，甚至是当前中国政治秩序正当性的最基本前提。也就是说今天中国政治秩序的正当性是建立在增长的基础上的，一旦 GDP 的增长比如说到了 7% 以下，不仅失业严重，很多社会问题也会产生，甚至会引起非常严重的政治秩序正当性的问题。所以我们说发展与和谐社会实际上是同等重要。谈到和谐社会，最重要的问题在于如何和谐？首先我认为这个和谐可以理解为两个方面，一个是利益和谐，还有一个是价值和谐。从利益的和谐来说，最核心的问题是如何分配利益，今天中国发生的一个问题是产生了强大的利益集团。这些利益集团与地方政府形成了非常密切的关系，地方 GDP 的增长，地方政府本身的利益要靠利益集团来推动。所以中央政府的很多理念(比如说和谐社会)现在要推下去很难，因为他受到了强势的利益集团乃至地方政府的各种利益上的考量而大打折扣。所以弱势群体、弱势地区的这些利益实际上往往得不到保障，特别是制度性的保障。怎么办？这个问题到了今天，政治体制的改革被提了出来。政治体制的改革实质就是理性地、合理地分配不同的、相互冲突的利益。民主讲到最后就是一个公正的、平等的利益分配，所以政治改革这个问题已经到了一个刻不容缓的地步，政治体制怎么改？从何改起？那当然是另外一个问题，值得我们继续讨论。另外一个价值和谐的问题，今天中国的断裂，不仅是社会的断裂，更重要的是价值的断裂。中国的网络现在有一句流行的话：“形势大好、人心大坏”。“人心大坏”就是说人心内部的一些最基本的价值标准失落了，社会失去了一些公共的价值和公共的标准。和谐的社会背后要有一些共同的理念、共同的价值，最后才能实现儒家所提出来的“君子和而不同”。“不同”就是利益不同，一些具体的价值观不同，但是人们能保持这个“和”。这个“和”不是一团和气式的“和”，而是背后的最基本的理念，最起码的核心价值观能够“和”。然而，今天中国的问题是和谐社会所必需的核心价值观失落了。这

个问题我明天下午的报告會具体涉及到。届时再与大家一起讨论，谢谢！

○座長 ありがとうございます。続きまして周星先生、お願いします。

○周星 我是爱知大学国际交流学部的周星。我的论文是在这个论文集的175页到182页。我是想从文化的角度来响应这个会议的主题。大家知道，中国的改革开放到最近几年进入了一个困难期，当然也进入了一个比较深化的时期。目前，有三个正在进行的非常重要的改革，一个是就在前不久提到的农村土地制度的改革。这个改革涉及到了执政党坚持的一些底线，这个底线到底是不是所谓社会主义的底线？还是像刚才一位教授讲的只不过是古代井田制在现代的一个演化？中国历史上是有过土地国有的传统，我们现在是不是有一些误解，把它误读成了社会主义的底线？这个我们不去讨论，但确实是一个敏感的改革。第二项改革涉及到社会总体的改革，以户籍制度为主，就是说全面地放松户籍制度。虽然改革进展的不是很快，但是这种改革确实在逐渐的全面铺开，它的意义就是说政府管理这个社会的方法，过去沿用的那套方法已经不能够再维系，那么，就要改革。究竟它有什么后果，现在我们还不知道。因为虽然中国政府是一个很大的政府，有时候会自以为能够包打天下，可是，真的把户籍制度完全放开以后，政府能够预计到的后果现在还不知道。这是现在正在进行中的，所以说，还是试探的逐渐摸索的一个改革，有时候是把一些改革的权限放给地方政府，让各个条件成熟的地方政府逐渐地改，从地方政府改起，全国并不是统一改。第三项改革则是经常被忽视的，这就是文化体制的改革。其实就在这三四年，中国进行了大刀阔斧的文化体制改革，我今天主要说文化体制改革。在我的论文里面，第一节主要讲改革开放在文化这个侧面，是说中国的文化体制改革有一个过程。我的论文的第二节，讲的是现在正在展开的文化体制改革的四个要点。文化体制的改革也涉及到非常敏感的问题，也就是所谓的底线，这个底线指的不是所有制，而是指执政党的意识形态。因为在中国，长期以来文化被看做是上层建筑的一部分，是共产党意识形态的一部分，这是非常重要的敏感的底线。所以，我把土地制度改革、户籍制度改革和文化体制改革看做是中国目前进入改革更为深化阶段的证明。文化体制改革有四个要点，第一个就是

说中国政府试图继续维持官方意识形态的影响力，但是，又想在这些意识形态和文化的不同领域之间做出明确的切割，这是一个首先要作的，即尽量把文化问题和意识形态分开，就像当年把政治问题和经济问题分开一样，这是它的第一项改革原则。即便文化有时在某些方面被认为具有意识形态的某些属性，它也已经是民族主义的意识形态，或者是民族国家的意识形态了，而不是像很多年前那样是阶级的意识形态，或者是革命政党的意识形态，这方面已经有了很大的变化。第二个要点是说文化体制改革是在一个市场经济的环境下，具有文化产业化的方向，改革的方向是就文化产业化。产业化，简单地说，就是对所有可能发展成为产业，或者具有消费市场潜力的文化领域，全部都进行类似于经济体制改革那样的改革。文化体制改革，其实就是在截止目前被认为比较成功的经济体制改革的延长线上，把那套改革拿来放在文化领域进行操作。第三个要点就是采取一个分类原则，也就是把所有的文化领域分成一部分是事业，一部分是产业，产业的部分尽量不让意识形态去干扰它，就按照自由市场经济的原则去发展。政府当然会试图控制，会施加它的影响力，但是这基本上是一个市场走向的改革。对于产业这个部分是通过市场机制去改革，但对于事业这个部分，则是强调政府对于文化的责任，要求向全体人民提供更多的文化公共服务。第四个要点就是文化行政改革，政府的职能需要在文化这一领域里也实现转换。如果我再回过头来说，把问题归纳成我理解的要点，那么，究竟发生了什么变化，就是说，中国的这三十年如果从文化角度来看的话，中国曾经奉行的是“革命”的文化政策，现在则变成了是一个全民的文化政策，过去曾经把文化看成是阶级性的，有一部分文化是被切割、打倒、革除的、比如“破四旧”，现在则把文化看作是全民的、民族主义的、全体国家的。这里面包含着一个价值的重建，传统文化全面复兴，试图在中国重建其价值。还有一个思路就是，曾经把文化当做政治来理解的时代已经逐渐地结束了，现在就是把文化作为经济来处理的一个阶段，但与此同时，又出现了把文化就作为文化本身来理解的一个时代的课题。这三个阶段，并不是能够很清楚地划分开来，但是它确实是三个阶段，大概可以看得出来，这三个阶段的互相重叠，互相有交错，可是，这个方向性是很明显的。大概这就是我的理解。

这个过程就是说，从文化这个领域，实际上也是跟中国政府的对和谐社会的建构这样一个导向是相互配合的。以上是我的一个简单的说明，就到这里。谢谢大家！

○座長 はい、どうもありがとうございました。では最後になりますが、張海洋先生、お願いします。

○張海洋 各位晚上好！我非常感谢高桥先生，还有高明洁、周星老师推荐我来参加这个会。我来自中央民族大学中国少数民族研究中心，我叫张海洋，我发言的提纲是在第 137 页到 142 页。我做这样一个题目是想通过突出一个领域来给我们这个研讨会关于和谐社会理念提供一个杠杆。我认为和谐社会是中国共产党成立以来提出的最有创意的一个理念，我们有责任来充实它的内容。我也感谢 ICCS 抓住这样一个概念来研讨它，我们认为和谐社会应该有一个理念的模型，这个模型的顶尖就应该是人与自然和谐的可持续的发展，那是目标。它的金字塔的底座就是我们目前的市场经济、科学技术和民族国家的体制。从这种基础到这个目标之间应该是有四个斜坡来支撑。第一个斜坡我们就叫他纵向分层的和谐，或者叫城乡贫富、区域发展的和谐，总的来说是一种马克思和谐。这个大家都在讨论，其实是一个老话题，它的重要性被夸大了，因为大家都已经认同了。第二个我觉得有点被忽略了，那就是横向分类的和谐，也就是民族、宗教、语言的和谐。这个是一个马克思·韦伯和谐的问题，是一个新问题。我说前一个问题被夸大了，国际共产主义运动搞了一百多年，西方自由主义搞了两百年，大家想法看法都一致，就是要消除它。大家有高度的认同，没有问题。但是对于怎样对待民族宗教语言的问题，大家就还没有这样高的共识，因此还要注意研讨。第三点是古今人神的和谐，也就是各民族历史文化的公平传承，仪式跟信仰，活人跟死人，当代跟历史的和谐。我觉得可以用一个亚洲价值，叫它萨满和谐。最后一条是国际关系和谐，就是承认人类不同国家和地区之间有差别，但也有基于人性的认同。我认为第一个问题在中国表现为三农问题，第二个问题在中国表现为少数民族问题。这两个问题对于中国是同样的重要，没有农民的中国和没有少数民族的中国都不是中国，但它却没有得到同样的重视。中共中央 1978 年改革开放以来三十多年，三至四次的中央全会决议就是不计

其数的“一号文件”，都是调整关于农村的关系。这些改革都是在给农民吃定心丸，给公务员和投资者划界限，让他不能侵犯某些方面的利益。但是对于同样的少数民族的问题，国家却很迟疑，一不给定心丸，二不划禁区。这就造成了巨大的改革开放的社会赤字。国家对少数民族和宗教到底要怎么样？在市场经济和开放社会条件下，我们应该抓紧解答和解决这一问题，包括推动国家通过改革创新来解答它。因为发展和开发 Development，不会放过少数民族地区。事实上，它已经就引起了前面各位所说的巨大的生态环境问题、社会公平问题、少数民族文化的公平传承的问题，这些矛盾在积累。而且就以 2008 年藏区的“3·14”，贵州的“6·28”，云南孟连的“7·15”，最近还有甘肃陇南的“11·17”，这是一个很明显的，带有趋势性的动态。社会矛盾在向这个地区集中，这应该引起我们的重视。我觉得在矛盾的如此积累，而国家不出台主导政策，孕育着巨大的社会政治风险。我接着想说什么是中国？中国是一个多元一体的复合文明，它由畜牧和农耕两大生计板块构成的，相当于太极图上的两仪。西边有一块高中国，东边有一块低中国，这样构成一个整体才是全中国。光有汉人没有少数民族的中国不是中国。这一点我们要有一个整体的认识。今天的中国比古代又复杂一些，东边有港澳台，西边有蒙新藏。我今天要强调为什么少数民族问题被忽略。我觉得这里边有唯物主义、经济主义、社会达尔文主义，也就是说专门以物质能力成败来论英雄，而不注重人的精神，不注重社会道德。我们说为什么一定要注意研究少数民族？因为少数民族在中国有着非常重要的意义，他就相当于日本的大米，有少数民族就有中国，相当于西方基督教，有少数民族在就有公平的指标，就是我们的天良。我觉得对于中国而言，他还相当于一种社会政治的多元化。国家只要有少数民族在，就不可能一下子把每个东西都给做没做坏。基于这一点我建议各位关注少数民族的问题，我们也有机会也有机制，机会就是说现在距离辛亥革命 100 周年还差三年时间，2012 年，在这三年时间里面我们有足够的时间学习做中国农村研究的人怎样推动了中共中央做出一次一次的决议。大家应该联合起来多做这方面的研究，摆出这方面的需求来，就是说让政府来重视。第二个机制是中央民族大学愿意做这种平台，各位的研究基地包括 ICCS，欢迎各位到中央

民族大学这样一个平台来,我们少数民族中心愿意做各位的下家。那么最后我就是想说感谢,再次感谢! Thank you!

○座長 皆さま方、どうもありがとうございます。私もゆっくりまとめようかと思いましたが、本当に時間がありません。今のご発言のなかで、いくつかの共通点がありました。ここは座長の権限で勝手に解釈させていただきますが、やはり何人かの方は、経済問題のなかで、特に効率と公平という概念に触れられました。つまり、効率と公平のアンバランスの問題が、現在の中国の社会矛盾、あるいはその他のさまざまな問題の1つの根源であるというところは、ほぼ共通しているのではないかと思います。

2点目は、精神の問題です。モラルに関する問題、あるいは道徳に関する問題です。あるいは宗教に関する、いわば人間の内面に関することです。このようなことに議論がおよぶことは素晴らしいことです。これは先ほどのジャック・ホウ先生のご講演のなかでも、アダム・スミスに触れられましたし、儒家思想についても触れられました。あるいはまた、マックス・ヴェーバー(Max Weber)の『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、これもある意味では経済の問題を考える際の重要な歴史的な文献ですが、同時にアダム・スミスについても触れられました。スミスはご承知のとおり、『国富論』のほかに『道徳感情論』という本を書いています。これはまさにスミスの道徳を、経済価値における自由経済の仕組みにおいて、道徳あるいは人々の内面的な制約、あるいは精神的なバランスをどのようにとっていくのか。これなしで経済はうまくいかないということを言っているわけです。その意味で、今日は、経済と、精神、心理に関する宗教をも含めた心理面、その2つの面について共通する考え方が示されました。

さらには、「開発」という言葉についての解釈です。今回のシンポジウムのテーマはまさに「開発」と「和諧」です。開発には二面性があります。開発とは、言うまでもなくハード面での開発です。まさに「西部大開発」でおこなわれたようなインフラストラクチャーの開発、あるいは資源輸送のための輸送機関の開発といったようなインフラ

面での開発と同時に、これに付随して人間の開発が必ず伴ってくるわけです。

つまり、ソフトと申しますか、ハードウェアの開発に伴って必要になってくる、いわば、新しく作り変えた自然に対する人間の対応の仕方です。これを周星先生は「文化」と表現されたとは私は理解しています。この「文化」につきましても、いわば経済主義と言いますか、この周星先生の文化的な分類の類型化の仕方は、私は門外漢なものですからなかなか理解できない点もありますが、やはり産業化、経済化、経済による文化の区分け、このようなところも進んできています。文化による経済のコントロールから、経済による文化のコントロールへという1つの転換が、側面として見られるようになってきているというように考えることもできるかと思います。

もう1つは、今の「開発」という言葉に関連しまして、加々美先生から「開発政治」という新しい言葉の問題提起もなされました。つまり、社会的、経済的、文化的な、さまざまな具体的に出現している問題に対して、いかにして解決をはかっていくかという実践的な、より現場主義的な目が必要です。これを政治的な観点から解釈をされてきたわけです。これには、多分に論争的な意向もあります。

さらに政治に関して、許先生からお話がありましたが、自由な政治の誕生の前提となるものをどのようにつくっていくのかということです。私は午前中の趣旨説明にて、「経済改革」「政治改革」「社会改革」「国際改革」の4つの言葉を示しましたが、自由政治という概念、これは私たちの社会からするとわかりやすいのですが、中国においてはまだまだ浸透しにくいものがあります。この点に関しまして、許先生は、いかにハーモナイズ(harmonize)する社会をつくるかという場合に、利益の調和をどのようにはかるかということを示されました。

利益の分配をどうするか。実は、この点も論点の1つだと私は思います。つまり、これについて私は、明日の報告で話そうと思っていますが、果たして分配の調和をはかるだけでいいのでしょうか。もちろん、これはまだできていないから問題なのですが、私はもう少し根源的な問題がある

のではないかと考えています。そのへんも討論したかったのですが、時間に限られています。

効率と公平については、川井先生とルー・ディン先生が、同じような視点から問題提起をなされております。特に、ルー・ディン先生は、さまざまなかを述べられたなかで、やはり重視されておられるのは道徳、モラルです。あるいは不公平と公平のアンバランスという問題です。これもよく理解できると思います。

冒頭で、川井先生もモラルの問題に触れられました。特に企業の社会的な責任、コンプライアンスの問題、これは川井先生のご専門ですので、その視点からの問題提起がありました。特に意見が重なっていた点は、とりわけアジア諸国との比較、つまりアジア型の開発、典型的に言えば雁行的とか、あるいは開発独裁といわれるようなアジア型の開発独裁と中国の問題が、どのように関連し合っているのかという視点が挙げられました。

宋先生は、中国五千年の歴史のなかでの東洋的な思想、これを環境との関連で、どのように調和させていくのかというところが関心の的ではなかったかと思っています。

さらに藤田先生からは、青海省での調査に基づきまして、具体的な青海省の環境破壊の実態、ならびにそれを是正していこうとする動きについて、写真を活用された実態報告をしていただきました。そこには、やはり生態系の回復にはどのような取り組みが必要なのか、具体的には、生態系と個人の間におけるアンバランスが環境問題であるといえます。現実問題として起きている、自然と人間社会とのアンバランスの結果生まれた環境問題を、人間がいったいどのようにして回復できるのでしょうか。自然自体は回復できる部分とできない部分があります。それに対して人間は、どのように能動的に働きかけて、開発と回復をはかっていくのかという視点のように、私は理解をいたしました。

それから、張海洋先生からは、とりわけご専門の分野とも関連して、少数民族問題との関連でお話されました。私は少数民族問題の専門ではありませんので、詳しくは申し上げられませんが、張海洋先生のお話から、やはりこれは中国社会にとって大きな課題であることは間違いないものだ

ろうと思います。

しかし、これは少数民族の問題だけではなく、農民の問題も裏腹な関係としてそこにあるということです。やはり、張海洋先生もマックス・ヴェーバーの話をされましたが、公平ということと、つまり経済運営、政治運営、社会運営、人間がとにかく絡んでいるわけですから、そこにどのようにして公平性原則をビルトインして安定化させていくのか、これが重要な視点ではなからうかという話だと思います。加えて国際的な観点からの「和諧」をどのように求めていくのか。そしてそのうえで、人と自然の和諧が初めて達成できるというようなフレームワークのお話をされたかと思っています。

私は座長の権限で、勝手にこのような解釈をしてお話をさせていただきましたが、時間もあまりありませんので、ぜひ会場のほうから、多少夕食を我慢していただいて、ぜひご意見、ご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。それではお願いします。質問は、ぜひ簡単をお願いします。

○会場(張玉林) 谢谢主持人! 我是南京大学社会学系的张玉林。我首先想介绍一下我自己对中共中央决定里面对中国当时处于一个基本和谐状况的理解。我个人感觉他可能没有什么具体的指标, 主要是从大局上的政治安定来考虑的, 或者说来判断的。这种政治安定换一个比较消极的说法可能就是执政党还在执政, 这如果说放到一些具体的区域、小的区域的话恐怕是很难做这种判定的。第二点我非常同意许纪霖教授对于不和谐的两种根本原因的评价, 而且我个人的感觉如果要补充一下的话, 我认为可能价值的和谐是更加重要的, 实际上他影响到利益的和谐, 或者说利益的均衡。这个价值的和谐最主要的就是体现在我们的国家层面上、意识形态层面上就是一种发展主义, 发展是硬道理。那么在个人层面上, 大家都知道是发财、致富或者说拜金主义, 这样一种价值观念成为国家生活成为个人生活的终极的非常核心的指导思想, 那么他实际上已经变成了一种宗教。刚才下午大阪的一位朋友问中国有没有宗教, 我个人认为从不是非常严格的学术意义上来讲, 中国这三十年是有宗教的, 而且这种宗教已经变成了一种邪教。问题是我们目前对这一点还没有很好的反省。非常不客气

的讲,刚才侯教授的报告,我听了之后有点觉得坐不住,为什么坐不住呢?你的核心想告诉我们的信息就是中国在未来的25年可能只还有23年了,还会增长7%。首先我们不问这个根据确实的依据到底来自哪里,那么作为一个社会学者我想提醒的是,增长7%他有什么样的意义?价值在哪里?那么包括刚才提到4万亿也好,现在实际上中国各个地方政府已经追加到18万亿了,我觉得这样一种经济对策实际上是以挽救小的崩溃来为大的崩溃堆积条件、积累条件。这一点我觉得经济学家尤其是需要认真的思考和反省。谢谢!

○座長 はい、コメントということでよろしいですね。張海洋先生のご質問は、私もよく理解できますが、おそらくこの話になりますと、また時間をとりますので、明日からの議論のなかで、また深めていただければと思います。ありがとうございました。

それでは、ほかにありませんか。南京大学がこれで2人続きますが、よろしいですか。

○会場(朱安新) 我是南京大学的朱安新。特别想对张海洋老师提一个问题。您提到了韦伯式的和谐,这个和谐您在做概念的时候有没有作为提出这个观念的学术上和现实上的 background? 比如说在中国有某种萌芽的状态可以来讨论韦伯式的和谐,或者说这是一个规范性的目标型的概念您提出来。请。谢谢!

○座長 では、簡単にお伝えいただけたらと思います。張海洋先生、お願いします。

○張 我觉得和谐社会和科学发展观提出本身也算是一个前提,就等于大家对于意识形态之争,然后纯粹的唯物论的唯经济论应该算是一种超越。我强调韦伯式的和谐,实际上跟马克思那个有一点稍稍并置的意思。马克思注重物质的方面,韦伯注重观念的方面,也就是刚才前边老师说的价值和和谐。这个方面你要说他有没有前提,我深信人性的需

求,特别是老人和孩子的那种永恒的需求,是我们无论如何要特别关照的。而在这一点上中国的少数民族人比起主流社会汉人特别是比城里人做的要好一些。所以我觉得应该让城里的人好好去学习他们怎么样去传承,那反过来的话,就会朝着这个和谐的方向走。我知道天下的事,他也有客观上的局势结构,也有主观上的能动性,我们必须用我们的能动性,否则我们都认了命的话,我们还当人干什么?我谢谢你! Thank you!

○座長 はい、ありがとうございます。大変残念ですが、もう時間がきていますので、このへんで閉じたいと思います。ただし、シンポジウムは今日始まったばかりですので、今日示されたいろいろな問題のほかにはたくさんのご質問があるかと思えます。明日から本格的に議論いたしますので、ぜひその際に、もっと深く、広く、ご議論をしていただければと思います。

今日は午後からジャック・ホウ先生のご講演、ならびに総合セッションの討論会ということで、またたく間に時間が過ぎ去ってしまいましたが、ぜひ皆さま方、明日からもお越しいただいて、議論に加わっていただければ幸いです。

とりあえず、今日はこれで締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。これで総合セッションを終わりますが、どうも和諧社会に対する見方は、専門分野、また自分の立場によって微妙に違っているようにも聞こえます。今日は問題提起にすぎませんので、今日、ご来場の皆さんも、今晚しっかり質問を温めていただいて、明日、そのメニューを用意してありますので、そのときぜひ登壇者との間で熱烈な討論を繰り広げるようにと期待をしております。それではこのセッションを終了いたします。